

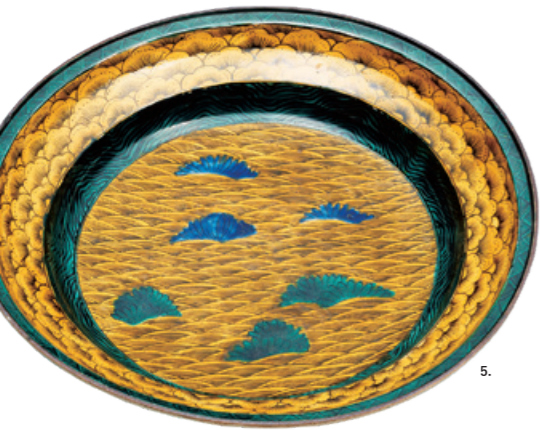


iichiko
総合文化センター
大分県立美術館

抽選で/
読者プレゼント!!
詳しくは裏面をチェック!
総合情報誌

2023-2024
WINTER
103
Take Free

国宝・重要文化財を含む
至極の品々

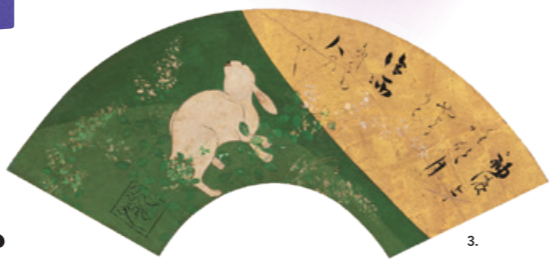


名山記念館 名品展

東京・白金台美の宝庫

Masterpieces from the
Hatakeyama
Memorial Museum
of Fine Art

2024年
2月9日(金)~3月26日(火)



①渡辺始興(四季花木園屏風)(部分)(重文、展示期間:2/9(金)~3/3(日))、②(青花龍満天球瓶)(重文)、③本阿弥光悦(扇面月兔面鏡)(展示期間:2/9(金)~3/3(日))、④尾形光琳(立姿時鐘螺鈿硯箱)(展示期間:3/5(火)~3/26(火))、⑤(古九谷青手菊海波文大平鉢)、⑥(柿の帯茶碗 銘 鹿沙門堂)(重文)

CONTENTS 2024年度 年間ラインナップ

こどもたちへ -未来へつなぐ、こころ育む-

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ / OPAM美術部

iichiko総合文化センター・大分県立美術館 総合情報誌

2023-2024 WINTER vol.103

企画・編集(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 〒870-0029 大分県大分市高砂町2番33号 iichiko総合文化センター内
発行日 2023年12月26日 企画・編集協力:おおいのインフォメーションハウス(株)

友の会 びびメンバーが体験!

「友の会びび」とは大分県立美術館(OPAM)とiichiko総合文化センターを中心に、大分県の芸術・文化を多くの皆さんに楽しんでもらうメンバーシップです。

REPORT

今回は「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」 ▶ 1階 展示室A

展覧会初日、開会式・内覧会が行われました。内覧会では、担当学芸員による解説も行われ、びび会員(KOTOBUKIメンバー)のみならずにも多くお越しいただきました。「古代ローマが日本と通じるところがあって驚いた」「かけ湯の文化ってローマにもあるんですね」など、興味深くご覧いただけたようです。「びび会員はふらっと気軽に美術館に立ち寄れるのがいいですね」とうれしい感想をいただきました。

レポートのような会員限定プログラムのほか、展覧会の無料鑑賞・割引など特典いっぱい! 詳細はコチラ▶



KOTOBUKI
メンバーには
図録の
プレゼントも!

※メンバー期間中に開催されるいずれかの企画展で1冊進呈。

- 特典内容はメンバーステージによって異なります。
- 最新情報がメルマガで届く、MEJIRO会員(無料)もあります。

お問合せ
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県芸術文化友の会びび
tel.097-533-4025(平日 9:00~17:00) fax.097-533-4050 E-mail. bivi@opam.jp

抽選で/
読者プレゼント!!

罪をあげる展(P10)でご紹介した「たんぼの家」が運営する「Good Job!センター香芝」のグッズをプレゼント!

1 はりこ (グッドドッグ犬) 1名様



2 ハンカチ (ピアノ) 1名様



3 招待券 (名山記念館名品展) ペア5組 10名様

締め切り
2/14(水)
23:59

プレゼントのご応募は
アンケートフォームから
応募はこちら▶



※厳選なる抽選のうえ、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※ご応募に際してご記入いただいたお客様の個人情報は、当キャンペーンのプレゼント発送にのみ使用いたします。

表紙のワード/

「五感の翼」とは?



「芸術文化ゾーン」とは、iichiko総合文化センターと隣接する大分県立美術館とで構成された区域のことを指します。

両施設は翼をはばたかせるように連携して、美術と音楽等幅広い分野の芸術文化の融合と、新しい価値の創造などの活動を展開しています。こうした感性・創造性を磨く「芸術文化ゾーン」を皆様を知っていただきたい、そういう思いから「五感の翼」をコンセプトワードにしています。



6/9日 **合唱**
ウィーン少年合唱団

音楽の都ウィーンより届く
"天使の歌声"

創立は1498年、長い歴史と実力を誇る合唱団が大分へ。世界中を魅了する天使の歌声が、iichikoグランシアタのリニューアルを彩ります。



©www.Lukasbeck.com

曲目:美しく青きドナウ ほか

7/30日 **音楽**
【鑑賞支援付き】
詩を楽しむ
日本の歌コンサート

日本の美しい詩を味わう

金子みすゞなど、誰もが知っている詩をメロディーにのせ、大分ゆかりの新星歌手たちが届けます。日本の美しい詩を新たなアプローチで。手話や字幕など鑑賞支援をご用意しています。

出演:磯田健太郎、中川誠宏、小倉理紗子、佐々木優実 ほか

iichiko
総合文化センター

いよいよiichikoグランシアタ/iichiko音の泉ホールが再開! 華やかな舞台をぜひお見逃しなく。

2024
Lineup!

2024年度
ラインナップ

大分県立美術館
OPAM

2024年度も五感の引き出しを広げ、感性を刺激する様々な展示や体験、展示にまつわるイベントなどを開催!

4/5日・5/6日 **展示**
つくる展

「つくる」の魅力を見つけよう

世界最強ともいえる日本のものづくりを、さらに元気にしているアートファクトリー「TASKO(タスコ)」。



Untitled (Making #235), 2021 © Gottingham Image courtesy of TASKO and Studio Xxingham

本展は、TASKO作品の「つくる」にするユニークな視点や発想を五感を使ってさまざまに体験しながら、「つくる」の魅力を発見する展示会です。ものづくりの不思議、おもしろさ、楽しさを見つけてみましょう!

9/23日 **オーケストラ**
レクチャー付き
オーケストラコンサート

まだ知らない
楽曲の魅力に迫る

2022年に開催し、好評を博した「レクチャー付き」コンサート。クラシックの名曲を、解説と演奏を通して紐解いていきます。

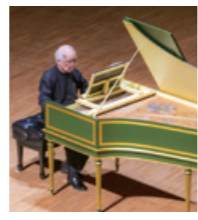


指揮:森口真司 (大分県立芸術文化短期大学 教授) 管弦楽:九州交響楽団

10/5日 **室内楽**
小林道夫×大塚直哉
2台のチェンバロコンサート

チェンバロ2台の名曲を

6年にわたるJ.S.バッハ「クラヴィア練習曲集」リサイタルシリーズを終えた小林道夫が、大塚直哉をパートナーに、そして川瀬麻由美ら弦楽器を加え、新たな魅力でバロックの世界に誘います。



曲目:J.S.バッハ/2台のチェンバロのための協奏曲 第1番~第3番 ほか

10/28日 **ジャズ**
JAZZコンサート
新感覚Groove!

大分が舞台のアニメ「ReLIFE」TV版のサントラを手がけ、大学教授、執筆活動とマルチに活躍し、名だたるミュージシャンが絶大な信頼を寄せる坪口昌泰らによるジャズコンサート。

出演:坪口昌泰、マーティ・ホロベック、守真人

11/23日 **吹奏楽**
英国近衛軍楽隊

バッキンガム宮殿を守る、
誇り高さ軍楽隊

国家行事のほか国内外でも演奏活動を行うコールドストリーム・ガーズ・バンドが来県。イギリスの歴史と伝統を感じる真紅の礼装と黒い毛皮の帽子にもご注目!



12/1日 **オペラ**
共同制作オペラ
沼尻竜典作曲
歌劇『竹取物語』

あの物語がオペラに!?

現存する最古の物語といわれる、古典文学「竹取物語」を耳なじみがよく親しみやすい音楽で綴った日本語オペラで上演します。言わずと知れた名作の新たな魅力をお楽しみください。



指揮:阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督) 演出:中村敬一 管弦楽:九州交響楽団 出演:砂川涼子、晴 雅彦、渡辺玲美、びわ湖ホール声楽アンサンブル

12/15日 **オーケストラ**
ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団

世界屈指のオーケストラ、待望の大分公演

2020年の開催延期より4年を経てついに実現! 指揮は抜群の人気と知名度を誇るパーヴォ・ヤルヴィ。圧倒的な演奏技術や豊かなレパートリーを誇るヒラリー・ハーンをソリストに迎え、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を演奏します。

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
ヴァイオリン:ヒラリー・ハーン
曲目:ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 ほか



©Kaupo Kikkas



©Dana van Leeuwen Decca

2025年1/11日 **伝統芸能**
おおいだ寄席 高砂亭

新春初笑い!
寄席の雰囲気をお分に

iichiko音の泉ホールが1日限りで寄席に変身。落語や講談、色物など様々な演芸を披露します。新しい年のスタートに、たくさん笑って福を呼び込みましょう!

出演:桂 文治、三遊亭歌双、一龍齋貞弥 ほか ※昼夜2回公演



2025年2/20日・24日 **室内楽**
おんがくのアーティスト・イン・レジデンス
地元若手音楽家と「音楽を創る」5日間



出演:水谷 晃、後藤 康、長石篤志、宇野健太、渡邊遼志 ほか

県出身のヴァイオリニスト・水谷晃を中心に、大分在住の若手音楽家が協演。公開リハーサルから「音楽を創る」過程をご覧いただけます。

2025年3/30日 **オーケストラ**
iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ
第16回定期演奏会

ただいま! 2年ぶりのホーム開催!

他県のジュニアオーケストラとの交流や初めての福岡公演を経験し、演奏にさらに磨きのかかった大分ジュニア。2年ぶりのiichikoグランシアタで大きく成長した姿を披露します。

指揮:喜古恵理香

2025年3月開催 **朗読**
声優×ピアノ
オリジナル音楽朗読劇

ピアノの生演奏と贈る
ショパンの物語

声優2名による朗読とピアノ演奏で、ショパンの生涯を辿るストーリーをお贈りします。出演声優およびピアニストは後日発表予定。ご期待ください!

7/26日・9/8日 **展示**
江戸東京博物館コレクションより
北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦

江戸の二大絵師が描く富士山を辿る

葛飾北斎の「富嶽三十六景」は、鮮烈な色彩と大胆な構図で人々に強い衝撃を与えました。北斎の大ヒットの陰で、広重はどのように自らの画風を打ち立てたのでしょうか。本展は江戸東京博物館の貴重なコレクションを通して、風景画で双璧をなす北斎と広重のあくなき挑戦の数々をご紹介します。



葛飾北斎(富嶽三十六景 凱風快晴) 天保2~4年(1831~33)頃 江戸東京博物館蔵

12/7日・2025年1/23日 **展示**
生誕120年・没後50年
生野祥雲齋展

美しき竹工芸の世界

「竹芸」分野初の人間国宝、生野祥雲齋。本展では生誕120年・没後50年を記念し、その作品の全貌を展示します。唐物風の初期作から、古典的構成に櫛目編を新たな感覚で取り入れた技巧的な作品群、さらに櫛目編を大胆に用いた彫刻的な作品や、晩年の竹の素朴な美しさを生かした作品まで、幅広い作風の展開をご紹介します。



生野祥雲齋(炎) 1957年

11/22日・2025年1/19日 **展示**
生誕120周年
サルバドール・ダリ 一天才の秘密

20世紀の奇才、ダリの回顧展

ダリの生誕120周年、シュルレアリスム宣言100年の節目に開催する本展は、諸橋近代美術館の所蔵品を中心にダリの生涯を概観します。ダリが観衆に魅せた「シュルレアリスト・ダリ」とその背景にある「人間・ダリ」の複雑で繊細な内面を探り、作品約60件と関連資料から、ダリがいかなる芸術家であったのか明らかにします。



2025年2/7日・4/13日 **展示**
ザ・キャビンカンパニー
大絵本美術展<童堂賛歌>

結成15年の集大成となる大規模個展

ザ・キャビンカンパニーは、大分県の廃校をアトリエにし、日々さまざまな作品を生み出している阿部健太郎と吉岡紗希による二人組の絵本作家/美術家。2009年のユニット結成以来手がけてきた40冊以上の絵本や立体作品、舞台美術など、「夢と驚きあふれる現代のアートびっくりに箱」ともいえる創作活動の全貌をご覧いただけます。



ザ・キャビンカンパニー<童堂賛歌> 2023年

畠山記念館

名品展

学芸員が
見どころを紹介！

2024年
会期 2/9(金)~3/26(火)
3/4(月)は展示替えのため休展
会場 大分県立美術館 3階 展示室B

国宝2件、重要文化財8件を 含めた約70件を公開

東京港区白金台にある畠山記念館は、昭和39年(1964)、株式会社荻原製作所の創業者である畠山一清(1881-1971)によって東京・白金台の閑静な地に開館しました。事業のかたわら、即翁と号して能楽と茶の湯を嗜む数寄者でもあった畠山一清は、長年にわたり熱心に美術品の蒐集に努めました。そのコレクションは、茶道具を中心とする日本、中国、朝鮮の古美術品で、国宝6件、重要文化財33件を含む約1300件に及びます。即翁の愛蔵印「與衆愛玩」の言葉には、「蒐集品を独占するのではなく、多くの人と共に楽しもう」という想いが込められています。

本展覧会は、施設改築工事のため休館している畠山記念館の「與衆愛玩」という即翁の理想を分かち合うために、全国2会場、九州ではOPAMのみで開催されます。本展には、国宝2件、重要文化財8件、重要美術品3件を含めた約70件が公開されます。厳選された約70件の名品を通して、即翁の審美眼と美意識にふれ、彼が愛した茶の湯をはじめとした日本文化を末永く伝えていきたいという思いを共有する機会となれば幸いです。

茶道具、屏風など日本美術の名品が目白押し！

茶道具からは《伊賀花入 銘 からたち》[写真2]をご紹介します。この作品は桃山時代に制作された、いわゆる古伊賀の花入で、重要文化財に指定されています。伊賀焼は三重県伊賀市周辺で桃山時代に茶道具を主として制作が盛んになった陶器で、一度衰退しましたが、江戸時代に再び奨励され、現在まで続いています。この作品は焼いた時に口の部分が割れて、その破片が付着したトゲトゲした様子から、茎にたくさんの棘を生じ、白い花をつける植物である「からたち」の銘が付いています。高温で焼かれることによって自然釉が生じ、裾の部分の焦げたような質感との対比がきいています。また、頸の部分のすばまり、耳が付いた形状や、歪み、へらによる装飾や面取りなどの造形的な工夫は、伊賀焼の特徴をよく表しています。また渡辺始興筆《四季花木図屏風》[写真3]も華やかな作品で今回の目玉のひとつです。六曲一双の屏風のなかに、右隻は桜を中心

に、左隻は紅葉を中心に、一隻につき20種類以上もの植物が鮮やかな色彩で描かれています。渡辺始興(1683-1755)は、江戸時代中期に活躍した京都の絵師で、初め狩野派を学びましたが、後に尾形光琳に師事しました。松の木の幹が垂直に伸び上がり、枝が鋭角に下がる描写や、紅葉の幹に印象的に用いられる「たらしこみ」(にじみの効果を生かす画法)は、確かに琳派の画風を想起させます。一方で、極端な大小の対比をつけて描かれた花々や、それぞれの花の描写自体は詳細で、かつ鬱金やタバコなど珍しい花も描いているところは、始興独自の描写と言えるでしょう。始興が仕えた近衛家熙は、諸芸に通じた文化人であり、また本草学的興味をもって植物を写生した『花木真寫』を執筆しました。始興が珍しい花を描くことができたのも、こうした環境があったからかもしれません。

展示会場では、この他にもたくさんの作品が一堂に公開されます。ぜひこの機会に畠山即翁の美意識にふれ、日本文化の精神性や深い美徳を感じていただき、何よりも美しい美術品をご堪能いただけたいと思います。(柴崎香那学芸員)

桃山時代の花入



【写真2】
《伊賀花入 銘 からたち》
桃山時代(16世紀)重要文化財

左隻は紅葉を中心に

四季折々の珍しい花木が描かれた渡辺始興の屏風

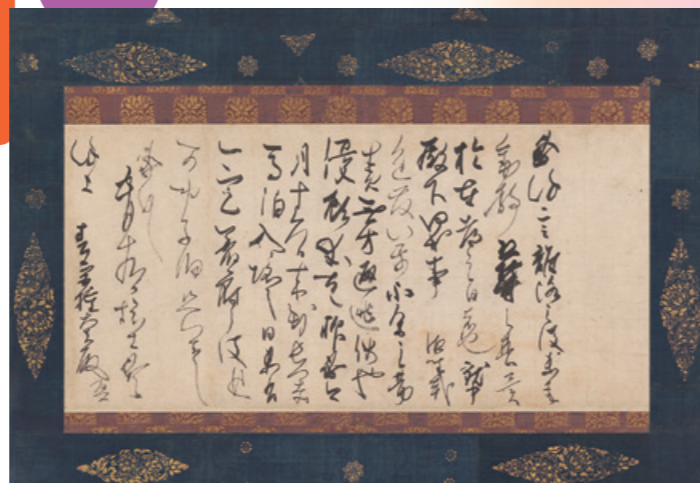
右隻は桜を中心に



【写真3】 渡辺始興《四季花木図屏風》江戸時代(18世紀) 重要美術品
展示期間:2/9(金)~3/3(日)

国宝

平安時代
能書家
藤原佐理の
書状



【写真1】藤原佐理《離洛帖》平安時代 正暦2年(991)国宝
展示期間:2/9(金)~3/3(日)

出会える！ 国宝に

畠山記念館の美術コレクションは、いずれも古美術界屈指の名品ばかりなのですが、本展には久しぶりに国宝が展示されます。2019年に開催した「日本の美意識—刀剣と金工—」展以来ですから、約4年ぶりに当館で国宝を鑑賞することができるのです。

学芸員一推しの名品として、平安時代の藤原佐理が書いた国宝《離洛帖》[写真1]をご紹介します。筆者の藤原佐理は、小野道風、藤原行成とともに「三蹟」と呼ばれる平安時代の能書家、公卿として知られています。本作は、佐理が太宰府の次官に任ぜられて九州に下向する途中、長門国赤間関(現・山口県下関市)で、摂政の藤原道隆に赴任の挨拶を怠ったため、その詫びの取りなしを縁者に宛てて依頼した詫び状です。書き出しに「謹言 離洛之後……」とあり、「洛」とは京のことで、京から九州に赴任するため「洛を離れる=離洛」という語が最初にあることから「離洛帖」と呼ばれています。

佐理四十八歳の書で、筆力の強さ、緩急抑揚の自在さ、墨の潤濁の変化、歯切れのよい筆致が遺憾なく発揮されています。今日に現存する佐理の書状五通の内でも精彩を放つ名筆といえます。今から約千年前の能書家の書状が現在に遺っていること自体が奇跡といえるでしょう。そしてこれが九州の大分で公開されることは、この機会を除いては、ほとんど無いでしょう。それほど貴重な書であり、見逃してほしくない国宝です。(宗像晋作主幹学芸員)

畠山記念館名品展

開催時間:10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで) 観覧料:一般1300(1100)円、大学・高校生1100(900)円

※中学生以下無料 ※()内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金 ※大分県芸術文化友の会びび KOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者1名は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。 ※本展覧会中にも限り、半券提示でコレクション展を1回無料でご覧いただけます。

お問合せ:大分県立美術館 Tel.097-533-4500

展覧会情報



コレクション展

V

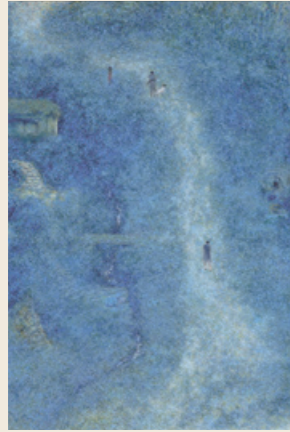
2024 コレクション展V 風景をめぐる —アートで小旅行—

会期 2024年2/1(木)～3/31(日)
休展日 2024年3/6(水)は展示替えのため休展
会場 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

みどころ1

心の風景をたどる

会場では写実的な風景画だけではなく、画家たちが記憶や場所の印象を元に描いた作品もご覧いただけます。こうした作品は「心象風景」とも呼ばれ、画家たちの幻想や理想が表現されています。どこかノスタルジックな風景をお楽しみください。



高山辰雄《由布の里道》1998年



荒井龍男《霞野やハ野想(茨竹桃)》1940年

みどころ2

大分の風景を絵で巡ろう

大分に故郷を持つ画家たち以外にも、梅原龍三郎や高田力蔵ら、大分を訪れた県外出身の画家たちがいます。別府・湯布院、日田など観光名所はもちろんのこと、その他の地も取材し描きました。作品を通して大分の風景をたどりましょう。



高田力蔵《別府大観》1953年



後藤真吉《城島風景》制作年不詳

みどころ3

おおいたマッピングクイズにチャレンジしよう!

日本画、版画や洋画といった様々なジャンルの展示作品のうち、大分の風景を描いた作品のいくつかの場所を当てるクイズをご用意します。展示室入口で地図入りのワークシートを受け取り、鑑賞しながらクイズに答えましょう。答え合わせは出口付近で。ぜひご家族、ご友人お誘いあわせの上、展覧会をお楽しみください。

※マップに書き込みをする方は、展示室に備え付けの鉛筆をご使用ください。

びびコレクション展オープニングレクチャー

2024年2/1(木) 14:00～15:00 びび会員様向けに、「旅した気分になれる」限定スペシャルギャラリートークを開催いたします。

ギャラリートーク 2024年2/18(日)、3/3(日)、17(日) 14:00～15:00 ※予約不要・要展覧会観覧券

開催時間：10:00～19:00、金・土曜～20:00(入場は閉館の30分前まで)

観覧料：一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※()内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください ※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料 **お問合せ**：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

どこかに出かけたい。そんな気持ちの時は大きな旅行を企てるよりも、近い場所を訪れると良いことがあります。たとえば美術館は、作品を通して空想上の旅をすることができる「小旅行」にもってこいの場所です。今年度最後のコレクション展では、日本画、洋画、版画などから、実際の風景や自然、画家たちの心の風景を描いた作品をご紹介します。

特に大分県には、別府、湯布院、耶馬溪など風光明媚な場所が多くあります。県内外の画家たちは自然豊かな大分に魅了され、思い思いの方法で風景を描いてきました。展覧会では作品に描かれた場所をあてるクイズも用意します。ぜひチャレンジしてみてください。

身近な土地を見つめ直したり、まだ見ぬ風景を探したり、絵とともに「小旅行」にでかける気分で見学室を歩いてみてください。

湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯
湯	<div style="text-align: center;">  <h1>テルマエ展</h1> <p>お風呂でつながる古代ローマと日本</p> <p>開催中—1.21(日) 大分県立美術館 1階 展示室A</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ギャラリートーク ※予約不要・要展覧会観覧券 2024年1/6(土)、13(土) 14:00～15:00</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>開館時間：10:00～19:00、 金・土曜～20:00(入場は閉館の30分前まで)</p> <p>観覧料：一般1400(1200)円、大学・高校生1000(800)円 ※()内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金。 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。</p> <p>お問合せ：大分県立美術館 Tel.097-533-4500</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「アポロとニンフへの奉納彫刻」2世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo © Luciano and Marco Pedicini</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>三浦宏《湯屋模型》 1980年代 個人蔵</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>《アポロとニンフへの奉納彫刻》2世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo © Luciano and Marco Pedicini</p> </div> </div>														湯
湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯

「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」にあわせて、日常の暮らしの様子を題材とする作品を展示しています。

2023 コレクション展IV 暮らしと美術—日常のひとこま—

会期 開催中～2024年1/28(日)
会場 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

ギャラリートーク 会場：大分県立美術館 3階 コレクション展示室
2024年1/14(日)、28(日) 14:00～15:00

開催時間：10:00～19:00、金・土曜～20:00(入場は閉館の30分前まで)

観覧料：一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※()内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください ※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料 **お問合せ**：大分県立美術館 Tel.097-533-4500

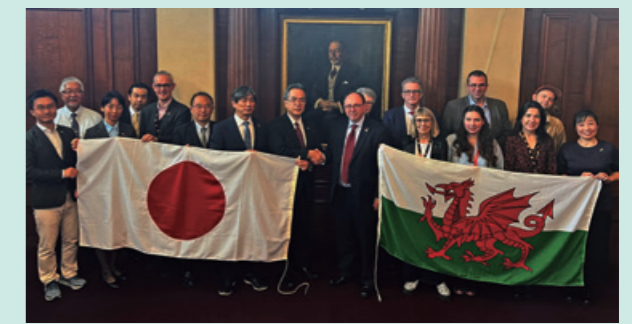


上村松園《月蝕の宵》1916年(片岡辰市コレクション)

OPAM×ウェールズ国立博物館 MOU締結記念交流会を開催しました



2022年3月、当財団とウェールズ国立博物館は、相互理解を深め、交流を推進していくことで合意し、「友好交流に関する覚書(MOU)」を締結しました。交流事業として、ウェールズを紹介するパネル展や学芸員の招聘などを行っています。今年度は、大分県・財団関係者8名がカーディフ国立博物館を訪問し、MOU締結記念交流会を開催しました。大分県立美術館の田沢館長が主な収蔵品についてご紹介したほか、竹の魅力を紹介するイベント「竹会」会場(美術館1階アトリウム)から、地元竹芸家の実演をオンライン中継しました。



カーディフ国立博物館未貸室(講演会場)にて撮影
写真：日本側中央より 山田雅文大分県企画振興部長、中島英司専務理事、田沢裕賀美術館長、ウェールズ側中央 キース・メルヴィル・ダン在カーディフ名誉領事

日時：2023年10月31日(火) 11:00-12:30(現地時間) 場所：カーディフ国立博物館(ウェールズ)

Artist



ピアーチェ
やまだ なつき いくしほ あすか
山田奈津紀さん 幾嶋明日香さん
ピアノ ソプラノ

「ピアーチェ」とは、「喜び」「自由に」という意味を持つイタリア語。2人は音楽大学が一緒で、卒業後、お互いの子どもの年齢が近かったことから意気投合し、活動するようになったという。「好きなことをずっと続けてほしい」という想いで臨んだ今回のコンサートでは、「子どもたちが真剣に話を聴いてくれて嬉しかった」と語っていました。

アウトリーチプログラム

「おでかけクラシックコンサート」

11月17日(金)
国東市立安岐小学校

この日は、小学5・6年生を対象にコンサートが行われました。児童たちにとっておでかけクラシックコンサートは初めての体験。会場の音楽室に少し緊張した面持ちで入場してきました。山田さんのピアノ演奏が始まり、後ろの扉からソプラノの幾嶋さんが歌いながら入場するとい



iiichiko総合文化センター

センターでは、子どもたちに音楽家による演奏や舞台公演の鑑賞機会を提供する取り組みを、企業からの支援などにより、学校や地域と連携して行なっています。その活動のひとつ、アウトリーチプログラムの「おでかけクラシックコンサート」をご紹介します。

うサプライズ演出にみんなびっくり。次の「うぬぼれ鏡」では、鏡を持ち、表情や動きで歌詞を表現する幾嶋さんの姿に笑みがこぼれる子どもたち。体を楽器のように響かせ、低音から高音まで自由自在に出すことのできる歌の魅力を感じました。歌声を体中に浴びた後は、一度に多くの音を響かせられるピアノについて模型を見ながら勉強。イスから身を乗り出して、話に聞き入っていました。

「みんなのよく知っている曲だよ」と言って演奏を始める山田さん。最初は「なんだらう?」と顔を見合わせる子どもたちでしたが、徐々に表情が「?」から「!」に変わっていきます。それもそのはず、この日のためにアレンジした校歌でした! 素敵にアレンジされた校歌をみんなで一緒に歌いました。オペレッタ「こうもり」より「侯爵様、あなたのような方には」では紙芝居でストーリーを説明して演奏へ。演技も加えた高い表現力と歌声に圧倒された様子。

最後はオリジナル曲「Treasure」。ピアーチェの2人から「夢を叶えることは素晴らしい! でもその過程はもっと大切で、意味のない時間はないんだよ」というメッセージを伝えました。2人の堂々としたパフォーマンスに「憧れる」「かっこよかった」と、将来への希望や夢がふくらむ、実りある演奏会となりました。



大分県立美術館

大分県立美術館では、作品を楽しみながら自分の感覚でみるきっかけとし、手、足、目、耳など、身体全体を使いながら、美術の楽しみ方を発見するワークショップを行なっています。多くの子どもたちに美術のおもしろさを体感してほしいとの思いから、当館のスタッフが学校等に出向き、出前ワークショップを実施しています。今回は秋に行われた2つのワークショップのレポートをお届けします。

SAIワークショップレクチャー

10月20日(金)
岩田学園(高校1年生70名)



SAI(写真家)

武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科大学院修了後、グラフィックデザイン事務所を経て独立。雑誌、広告等、アーティストポートレート、俳優、女優の写真集などの分野で活動。テレビCM、ミュージックPVなどの映像カメラマンや映像監督も手がけるほか、写真展なども開催。



写真家のSAIさんをお招きしたワークショップレクチャー。まずは、SAIさんの作品をスクリーンに映し出し、解説していただきました。これまで数々の俳優やアイドルを撮影してきたSAIさん。知った顔がスクリーンに映るたび、生徒たちの歓声があがります。撮影時の裏話なども飛び出し、生徒たちは興味津々! 「なぜこんな素敵な写真が撮れるのか?」という問いには、「テクニックよりも被写体との関係性や、その人の魅力をどう引き出してあげるかが大事。人間も動物も植物もどの角度で一番輝くのかを常に考えています」とSAIさん。最後に「やりたいことはまず声に出すこと。周りを気にせず、自分の信じる道をガンガン進んでほしい」とアドバイス。普段接することのない、プロの写真家との出会いは、刺激的な時間になったようです。

学校を劇場化する

11月6日(月)
東九州龍谷高等学校(高校2年生23名)



穴井 豪

(ダンスアーティスト、コンテンポラリーダンサー、振付師、俳優)
大分県出身。大学在学時にダンスを始め、24歳の時に日本を代表するダンスカンパニー「Leni-Basso」のメンバーとして世界で活躍。スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンピース」の振付も行った。現在は振付やWSなどで全国を飛び回っている。



コンテンポラリーダンサーの穴井豪さんが、東九州龍谷高校の生徒を対象に、学校を舞台に表現を行った今回のワークショップ。「ラジオ体操」をベースに、丸めた新聞紙をたくさん詰めた大きな袋を自分たちでコントロールしながら階段で踊り、最後には大きな袋を階段の上から落とします。ラジオ体操という枠にはめられた動きをしながら、自分の思い通りにならない「袋(社会)」と「自分」の関わりを目に見える形で表現します。自分の体でイメージを表現することに戸惑う生徒もいましたが、それぞれがどう動けばよいか考えながら表現していました。穴井さんが作品を作るときは、常に社会との関わりを念頭に置いています。ただ、気持ちよく踊るのではなく、その場の空気や生徒の実態を手探りで感じながら「学生のリアル」が表現できた時間でした。

REPORT

11.8(水) - 18(土)

おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展
vol.5「扉をあける」

会場：大分県立美術館 1階 展示室A



おおいた
障がい者
芸術文化
支援センター

県内外にて魅力的な芸術文化活動に取り組む個人や施設を紹介する展覧会。今回は、奈良県で50年にわたり障がい者芸術に取り組んできた「たんぼぼの家」の作品と、県内を代表する作家の作品を計11日間展示。作家たちの個性豊かな作品が制作風景の動画と共に紹介されました。

トークイベント
たんぼぼの家の「扉をあける」

※手話通訳あり

日時：11/12(日) 14:00～



今年で50周年を迎えた、たんぼぼの家の岡部太郎氏に、活動の基となる理念や、これまでの歩みなどを紹介していただきました。アーティスト一人ひとりの個性に向き合い、作品作りをしていくという関わり方や、障がいのある方のアートをどう仕事にしていくかなど、聴講者の質問にも答えながら、今後の障がい者芸術のあり方について考える良い機会となりました。

パフォーマンス発表
「よるとびらをあける～オリジナル影絵パフォーマンス」

※手話通訳あり

日時：11/12(日) 18:00～



公募で集まった約20名の参加者と一緒に、「影」をテーマにしたオリジナルの影絵パフォーマンスを創作し、インドネシアの民族楽器ジャワ・ガムランの音にのせながら披露しました。参加者は、3日間のワークショップでカプトムシヤニワトリ、ウサギなど、影絵用の人形を制作。月が夜空に現れ、朝日が昇るまでの「よるの時間」の生き物たちを表現しました。会場に集まった約60人の観客は、影絵の迫力や、楽しそうに踊る参加者の姿に魅了されていました。

今号の読者プレゼントは「たんぼぼの家」関連グッズ！冊子裏面をご覧ください。

【大分県公立文化施設協議会加盟館が主催する舞台芸術公演情報】

おおいたホールナビ
Oita Hall Navi

三遊亭圓歌
独演会

1/14(日)
【開演】14:00 【終演】16:00(予定)

【料】一般3,000円、
高校生以下1,500円(全席指定)
※未就学児入場不可
【所】日田市民文化会館「ハトリア日田」
大ホール(やまびこ)
【問】日田市民文化会館「ハトリア日田」
☎0973-25-5000

『大誘拐』
～四人で大スペクタクル～

2/20(火)
【開演】18:30 【終演】20:30(予定)

【料】一般8,000円、
高校生以下2,500円(全席指定)
※未就学児入場不可
【出】中山優馬、柴田理恵、
風間杜夫、白石加代子
【所】日田市民文化会館「ハトリア日田」
大ホール(やまびこ)
【問】日田市民文化会館「ハトリア日田」
☎0973-25-5000

松浦航大×よよよちゃん
歌まねジョイント
コンサート in 宇佐

2/25(日)
【開演】15:00 【終演】16:30(予定)

【料】4,800円(全席指定)
※未就学児入場不可
【所】宇佐文化会館・ウサノピア
大ホール
【問】宇佐文化会館・ウサノピア
☎0978-33-3100
(9:00～18:00)

OAB大分朝日放送開局30周年記念
近藤真彦
Masahiko Kondo KANREKI DASH
M5K9 LIVE TOUR 2023-2024

3/16(土)
【開演】16:00

【料】前売券9,300円、当日券9,800円
(全席指定)※3歳以上入場可
【所】宇佐文化会館・ウサノピア
大ホール
【問】宇佐文化会館・ウサノピア
☎0978-33-3100
(9:00～18:00)

※公演内容が変更となる場合があります。詳しくは各館にお問合せください。

3/20(水・祝)

無料

予約不要

今年度3回目の開催！
iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラが
OPAMにやってきた！

12:30～13:00(予定)
会場：大分県立美術館 1階 アトリウム



3/24(日)

初の県外公演！

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ
第15回 定期演奏会

指揮：下野竜也
15:30開場 / 16:00開演
会場：福岡シンフォニーホール
(アークロス福岡)



曲目
モーツァルト/ディヴェルティメント K.138
グリーグ/「ペールギュント」より
チャイコフスキー/交響曲第5番 小短調

<全席自由>
一般 1,000円
学生(高校生以下) 500円
未就学児(4歳以上入場可) 無料 ※要チケット

チケット発売中



ご来場お待ちしております！

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラの令和5年度の活動は、大分銀行、豊和銀行、TOSテレビ大分よりご支援いただいております。

主催・お問合せ：iichiko総合文化センター〔(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団〕 Tel.097-533-4004

iichiko Grand Theater

JUNIOR ORCHESTRA

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ

2024年3月までの主な活動をご紹介します！

2/11(日)

ミニミニフェスティバル

無料

9:45～10:15…経験者コース(講師レッスン)
10:50～11:00…ミニミニコンサート
(会場:iichikoアトリウムプラザ)
11:15～12:05…初心者コース(楽器体験)

※参加申込は12/27で終了しています

11/5(日) [テンペラ画]



前半は「テンペラ画」についての歴史や技術、道具、絵の具の作り方や金箔の貼り方を講義形式で学び、その後木島先生のテンペラ画を鑑賞。繊細で鮮やかな作品をじっくり、しっかり見ていきました。後半は、前回麻布を貼った下地に石こうを塗っていきます。まずは、手で気泡が入らないように麻布の隙間に塗り込み、乾いたら刷毛で丁寧に石こうを重ねます。なかなか固まらない石こうに格闘しながら目標の7回を目指して塗り重ねていきました。次回は削りの工程に入ります。「昔の人は絵を描き始めるまでに膨大な時間をかけていたんだな」と新たな気づきも生まれました。

OPAM美術部 +α

卵を展色材に描くテンペラ画は、下地作りから絵具づくり、金箔貼り、そして採色まで制作工程がとても複雑。そんな古典技法・テンペラ画に美術部が挑みます！多くの工程を経て、どのような作品が生まれるか、今から楽しみです。

講師
木島隆康
(修復家・
東京藝術大学
名誉教授)



10/15(日) [技術史からみた美術史]

このシリーズはOPAM美術部の活動を3時間枠に拡大。一般の参加者も交えての活動です。絵画修復の専門家として油絵作品の修復を牽引してきた修復家の木島隆康氏を講師に迎え、前半は「技術史からみた美術史」のレクチャー。フレスコ画やテンペラ画、油絵など、技法を視点に美術史を学びました。後半はテンペラ画のための第1回の下地作り。やすりがけしたパネルに、湯せんで温めた兔膠(うさぎにかわ)を塗り重ね、麻布を貼り付けます。テンペラ画は古典的な技法のため、時間と手間が掛かります。

